

出会いのワゴン (後期)

二月といえば、節分、バレンタインデー、学年末考査など様々な行事が目白押しですが、とりあえずそういうことは置いておいて、今回は五年図書委員の独断と偏見で選ぶ、「学生のうちに一度は読みたい本」を紹介したいと思います。しつこいようですが、飽くまで図書委員の「独断と偏見」に基づきますので、ご容赦くださいませ。

『女生徒』

太宰治

太宰治の著した、一人の女生徒の独白体で書かれた短編小説である。

『森の生活』

ウォールデン

HDソロー

現代人の生活から離れて、ゆっくり暮らしてみたいと考えたことのある人は多いと思います。この本はウォールデン湖畔の森の中に自分の手で家を建てた著者の、実体験をもとに書かれているので、喧噪から逃れて暮らしてみたいと考えている人にはぜひ読んでほしい一冊です。

読む前と後で考え方が変わるかもしれませんが、変わらないかもしれません。この本を参考にして『デジタル・ミニマリスト』という本が書かれています。そちらの本も興味深いので、併せて読んでみて下さい！

『思考の整理学』

外山滋比古

「東大・京大生に最も読まれた本」として有名。考えることの楽しさを満喫させてくれる本」と紹介されています。西校100選にも入っています。1986年にちくま文庫から出版されて、版を重ねること124刷!! 30年で200万部超えの大ベストセラー。

(五年)

エッセイ「山とわたし」

私の母は山に登るのが好きだ。週末はいつも愛媛県内の皿が峰や右鎚といった山に通っている。私は出不精だから、母の姿を見て憧れとかそういうものは全く抱かないけれど、登山に行くときの母の顔はどこか生き生きとしていて、大人になっても変わらず物事を楽しむことの重要性を再認識させられる。

コロナが流行る前、家族で乗鞍岳に登ったことがある。私はその時、反抗期の真っ最中だったので「都会に行かせろ」とか「めんどくさい」などと不平不満をつぶやいたりしていたが、山頂に登った時の達成感だけは素直に味わうことができたのは覚えている。

話は変わるが、最近「ソロキャンプ」というものが流行っている。芸人のヒロシさんがテレビでやっているのを見たことがあるかもしれない。ソロキャンプの楽しいところ言えばやはり「食」だろう。出不精な私も、一度は自然の中でお肉をむさぼりたいというひそかな野望を抱いている。そんなソロキャンプに欠かせない食事を楽しくしてくれる一冊が図書館にある。

『日々野鮎美の山ごはんレシピ』

この本は『山と食欲と私』という漫画の主人公である日々野鮎美が、簡単に美味しい山ごはんメニューを紹介してくれている本である。ぜひ、図書館に来て借りてほしい。

(四年)

新刊紹介

『サイエンス5000年史』

人類の知の歴史をたどる旅へ クルーズ・メアリー

『そこに工場があるかぎり』 小川 洋子

『ぼくはお金を使わずに生きることにした』

『ぼくはテクノロジーを使わずに生きることになった』

『ニュージールランド アンダーソン首相』

世界を動かす共感力 M・チャップマン

『橋の上の子どもたち』 ウェンカトラマン・パドマ

『最後に「ありがとう」と言えたなら』 大森あきこ

『北里柴三郎 感染症と闘った男』 上山 明博

『砂に埋もれる犬』 桐野 夏生

『現代経済学の直観的方法』

『旅する練習』 長沼伸一郎

『地政学』 乗代 雄介

『言語学バーリ・トゥードRound1』 奥山 真司

『AIは「絶対に押すなよ」を理解できるか』川添 愛

『歴史の中の地震・噴火 過去が示す未来』東京大学出版会

『リアルでゆかいなこみ事典』『ミ清掃芸人は見た!』

『黄色い目の魚』 佐藤多佳子

『木曜日は「コ」アを』 青山美智子

『南方熊楠と宮沢賢治 日本のスピリチュアリティの系譜』

『ファクションに仕事で世界を変える』

『エシカル・ビジネスによる社会貢献』白木 夏子

『学校の役割って何だろう』 中澤 涉

『団地のコト』 八東 澄子

『星新一の思想 予見・冷笑・賢慮の人』浅羽 通明

『女性の生きづらさとジェンダー』

『片隅』の言葉と向き合う心理学』 青野 徳子

『数学ガールの物理ノート ニュートン力学』 結城浩

『経済学者が語るスポーツの力』 佐々木 勝

(四年)

出会う「シン」(前期)

二月と言えば、みんな大好きバレンタインですよね！今回は、バレンタインにちなんで「お菓子」をテーマにしてみました

『つくりたい！食べたい！料理大百科④』

脇雅世

トリュフやチョコレートケーキはもちろんその他様々なお菓子の作り方が載っています。分かりやすく身近なものを使っているので、みなさんも何かチャレンジしてみませんか？

『シュトルーデルを焼きながら』

シヨアン・ロックリン

おばあちゃんの、そのまたおばあちゃんから伝わる、伝統のお菓子シュトルーデル。お菓子を焼きながら語られる、長い家族の物語です。レシピも載っているので、ぜひ作ってみてください。

『かっこつけて大失敗 見栄っぱりなボクらに愛を』

長江優子

ちょっとかっこつけただけ…そんなことで大失敗した3人の最悪のバレンタインデーの物語です。三人のバレンタインは一体どうなるのか気になりますか？

『京菓子和琳派 食べるアートの世界』

濱崎加奈子 勝冶真美

お菓子は洋風だけじゃない!!授業でも習った琳派の絵をテーマとして作られた京菓子の写真が沢山載っていて、絵と見比べるもよし、美味しそうだとただ眺めるもよし。「和」の世界を楽しんでみませんか？

(一年)



前期副委員長の本音

私はこれを読む人は少ないと思っている。というか事実少ないだろう。そう仮定して話を進める。

私は本が好きだ。物にもよるが、私はよく本を読むほうだと思う。だからこそ思う。なぜみんな本を読まないのだろう。もちろん人に好みがあるのは分かる。だが、探せば好みに合う本が見つかると思うのだ。別に本を読むことを強制する訳ではない。だが、本を読んでほしいと思うのだ。めんどくさいから読まない？そんな人こそ読んでみるべきだと思うのだ。読んでみたら本の世界に引き込まれると思う。想像力が豊かな人だとおさらだと思う。これは余談だが、エッセイを書くのはこれが初めてなのだからとにかく難しい。マジで。これをすらすら書けるのはすごいと思う。見習わなければならない。皆こうやって頑張っているのだから、どうか読んでほしい。読んでくれる人が少ないのは、読みのことを気にしすぎなくて済むが、それはそれで少し寂しく思う。

「読んでほしいけど読んでほしくない」

これが私がエッセイを書き終わって感じた本音だ。

(三年)

新刊紹介

『日本語の大疑問 眠れなくなるほど』

面白い言葉の世界』 国立国語研究所編

『すばらしい人体あなたの体をめぐる 知的冒険』

山本 健人

『行動経済学』

阿部 誠

『本当の自由を手に入れるお金の大学』

赤と青のエスキース』

青山 美智子

『三千円の使い方』

原田 ひ香

『コンビ二兄弟1・2』

町田 その子

『ジブリの立体建造物展図録』

『一千一ギガ物語』

The Digital Night』

藤井 青銅

『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂 冬馬

『情報生産者になる』

上野 千鶴子

『情報生産者になってみた』

上野千鶴子に極意を学ぶ』 上野ゼミ卒業生

『ヘンな科学』イグノーベル賞研究40講』

五十嵐 杏南

『もついちど、あなたと食べたい』

筒井 ともみ

『ウイルスはささやく これからの世界を生きるための新ウイルス論』

武村 政春

『図説鎌倉北条氏』

野口 実

『宮沢賢治の地学シリーズ』

柴山 元彦

『ぼくモグラ キツネ馬』

マケッジーチャリ

『スモールワールズ』

一穂 ミチ

『正欲』

朝井リョウ

Fukase

『ブルーノ』

朝井リョウ

Fukase

『はたらく細胞図鑑シリーズ』

『悩めるアルコールラング君と理科の実験器具たち』

(二年)

編集後記

皆さんは本を選ぶとき、どのような点を意識しているだろうか。好きなジャンルや著者、気になるタイトル、表紙など複数の要素によって選ぶ人が多いだろう。しかし、多くの人が見落としている要素がある。それは参考文献である。参考文献とはある本を執筆するときに参考にした本であり、文学、マンガ以外の多くの本に記載されている。参考文献が多いほど内容が濃く、期待できる本であると言えるだろう。また参考文献を読むと、本の内容を深く理解することができるため、便利である。実際に私も、数学の参考書の文献として紹介されていた高木貞治著『解析概論』を読み、参考書のみではわからなかった点を理解できたことがある。

このように、参考文献は本と本を繋ぐ架け橋のようなものである。また、その多さと本の質には正の相関があるため、本を選ぶときの重要な要素の一つとなる。

皆さんも、本を選ぶときに、参考文献を意識してみてはいかがだろうか。

(委員長)

